

2026年8月14日

各位

会社名 朝日インテック株式会社
代表者名 代表取締役社長 宮田 憲次
(東証プライム・名証プレミア コード番号: 7747)
問合せ先 取締役 管理本部長 伊藤 瑞穂
(TEL. 0561-48-5551)

中期経営計画「Building the Future 2030」の目標数値および
長期ビジョンの数値目標の見直し（上方修正）に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、現在推進中の中期経営計画「Building the Future 2030 ～Unlocking Sustainable Growth～」について、最終年度の数値目標を上方に見直すとともに、これを踏まえ、長期ビジョンにおける数値目標を見直すことを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

本見直しは、当社グループの長期的な方向性や成長戦略を変更するものではなく、これまで推進してきた重点施策の成果として、売上高の前倒し進捗、生産性改善を中心とした収益力の向上を反映するとともに、外部環境の変化として為替前提の変更についても織り込むものです。

引き続き、持続的な成長と企業価値の向上に向け、各戦略・施策を着実に推進してまいります。

記

1. 数値目標見直しの背景・理由

中期経営計画の策定以降、各地域・事業における市場シェア拡大が着実に進展し、売上高については当初計画を前倒しで達成することが見込まれております。また、海外工場における生産性改善が当初の想定を上回って進展したこと等により、売上総利益率についても実力値ベースで当初想定を上回ることが予想されます。

これらの事業進捗に加え、足元の為替動向を踏まえて計画策定時の前提為替レートを変更し、その影響を各経営指標に織り込んだ結果、計画最終年度における数値目標を引き上げることといたしました。

また、中期経営計画の目標数値の見直しを踏まえ、当社グループが目指す中長期的な成長の姿との整合を図るため、長期ビジョンに掲げる数値目標についても見直すことといたしました。

2. 中期経営計画の最終年度(2030年6月期)の数値目標

経営指標	当初目標	見直し後目標	主な見直し理由
売上高	1,800 億円	2,125 億円	各地域・事業の成長進捗等を反映
売上総利益率	69.0%	72.5%	生産性の改善、 外部環境の変化(価格高騰など)を反映
営業利益	504 億円	680 億円	売上成長、生産性向上、 および収益性改善を反映
営業利益率	28.0%	32.0%	
ROE	16.0%	20.0%	利益成長および資本効率向上を反映
ROIC	16.0%	19.0%	事業収益性および投下資本効率向上を反映

なお、見直し後の各数値目標には、足元の為替動向を踏まえた前提為替レートの変更による影響を織り込んでおります。前提為替レートを以下のとおり変更しております。

(単位レート：円)	US \$	EURO	中国元	BAHT
当初前提	143.00	165.00	20.00	4.60
見直し後	155.00	179.00	22.00	4.90

また、キャピタルアロケーションについては、成長投資と株主還元の適切なバランスを図る基本的な考え方に変更はありません。今回の数値目標の見直しに伴うキャッシュ創出力の変化等を踏まえ、計画数値を見直しております。詳細は、添付の説明資料をご参照ください。

3. 長期ビジョンの数値目標の見直し

中期経営計画の目標数値の見直しを踏まえ、当社グループが目指す中長期的な成長の姿との整合を図るため、長期ビジョンに掲げる売上高および営業利益率の数値目標を以下のとおり見直しております。なお、長期ビジョンが示す当社グループの目指す方向性および事業領域に変更はありません。

	当初目標	見直し後目標
売上高	3,000 億円	3,300 億円
営業利益率	30.0%	33.0%

4. 基本方針・成長戦略について

本見直しは、当社グループが目指す長期的な方向性や、中期経営計画に掲げる基本方針および成長戦略を変更するものではありません。

当社は、引き続き、各戦略・施策を着実に推進し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

5. 今後の見通し

2027 年 6 月期の連結業績予想については、2026 年 8 月 14 日に公表した「2026 年 6 月期 決算短信」

1. 経営成績等の概況（4）今後の見通しに記載のとおりです。

今回の中期経営計画の目標数値の見直しは、同業績予想の策定にあたって織り込んだ足元の販売拡大、生産性改善および為替動向等を踏まえ、計画最終年度までの成長見通しを改めて精査したものです。

以 上